

「JUIDA SCHOOL AWARDS2025」 スクール活動内容 応募資料

スクール名（法人名）

HIROSHIMA ドローンファーム仙養校（株式会社 DroneScenery）

・タイトル

神石高原町との防災事業について

・応募内容要旨

地方自治体と一緒に活動してきた記録とその想いを知っていただきたく、今回応募致しました。

広島県神石郡神石高原町は中山間地域で人口減少の著しい地域です。その神石高原町が役場主体で防災にドローンを活用する事業を立ち上げ、ドローンの操縦者育成として協力するために 2020 年 7 月に HIROSHIMA ドローンファーム仙養校を起ち上げました。あれから 5 年が経ち、現在は【地産地防】（自分たちの地域を自分たちで守る）を目的に防災組織「神石高原ドローン活用研究会」を地域の住民 25 名と一緒に運営活動しています。

一昨年度、昨年度と役場主体の次世代育成事業として、地域の小中学校 7 校にドローンの座学講習（小中学生向け）とドローン体験会を行いました。今年も地域の中学校 2 校と他地域 1 校でのドローングループワークを開催予定です。

その他にも、今年度来年度で DJI FlyCart30 を活用し、防災時における災害備蓄品の搬送実証実験を予定しているのと、鳥獣害対策として超音波発生装置を搭載したドローンで鳥獣害を退避させる取組みに関わっております。

ドローン普及や地域への浸透、防災のドローン実用化に向けて取り組んでおりますので、是非表彰いただけると幸いです。

・アピールポイント

審査基準である、以下の 5 つのポイントを意識して、アピールポイントを記入してください。1. 独自性／2. 先進性／3. 創意工夫／4. 受講者視点／5. 安全教育の視点

1. 独自性

防災でドローンを活用する取組みは全国の各自治体にて行われておりますが、地域の住民がドローンを活用して地域の防災を担う取組みは全国初の取組みだと思います。もう一つ、今年度 DJIFlyCart30 を神石高原町役場が購入し、その運用を町民防災組織「神石高原ドローン活用研究会」の私ともう一人に任されました。今後防災活動にて FlyCart30 を活用していく予定ですが、これも全国初の取組みになります。

2. 先進性

独自性と内容は同じです。防災でドローンを活用することは当たり前になってきましたが、自治体がドローンを用意し町民が活用していくなど、全国初の取組みをとり続けていく先進性はどこよりもあると感じております。

3. 創意工夫

自治体がドローンを用意し、地域の住民である我々がそのドローンを活用するという取組みは、【地産地防】（自分たちの地域を自分たちで守る）の観点でとても的を射た取組みだと思います。

4. 受講者視点

地域の防災を担う存在として、防災に関わる心持ちや体験談など分かりやすく説明させてもらうので、防災でドローンを活用するイメージを持ちやすいと思います。

5. 安全教育の視点

HIROSHIMA ドローンファーム仙養校を開校した当時、神石高原町役場の職員を集め、ドローン体験会を開催し、ドローン活用について検討していただく機会を設けました。その後、神石高原ドローン活用研究会という、地域住民が担うドローン操縦士防災組織ができましたので、最初の一步が防災事業を進める礎になったのではないかと考えています。単なる技術普及ではなく、災害時にこそ求められる安全に運用する力の育成を重視し、地域住民の技術向上と安全意識の向上、ドローン活用の体制の構築に取り組んで来ました。

神石高原町のドローン町民防災組織 「神石高原ドローン活用研究会」

- ・「地産地防」をテーマにドローンを防災に活用
- ・2019年に担い手を募集活動開始
- ・2020年に「神石高原ドローン活用研究会」へ初年度5名→現在25名



神石高原ドローン活用研究会の活動について

- ・月2回の自主訓練
- ・災害時対応



HIROSHIMA ドローンファーム仙養校

次世代育成事業について



小中学校にて学生向けに体験会をしました。
ドローンがどういうモノか、
何に使えるのか、
今足りないモノや必要なヒトについて
講習させていただきました。

- ・三和中学校
- ・油木小学校
- ・豊松小学校
- ・神石小学校
- ・来見小学校
- ・三和小学校
- ・神石高原中学校



他企業と物資搬送実証実験もしました

2023年5月22日（木）
神石スカイサービス様
eロボティクス様



カントリーパーク仙養にて
往復1.1km
30kg搬送実証実験



HIROSHIMA ドローンファーム仙養校